



慶應義塾大学ビジネス・スクール

大町工業株式会社 (A)

1986年（昭和61年）初春、大町工業株式会社の大町一雄副社長は、顧客に対する納期保証の問題をどのように改善してゆくべきかについて思いをめぐらせていた。各種の包装材を中心とする産業用資材のメーカーとして、頻発する納期遅延の問題は、一段と厳しさを増しつつある競争環境の中で、同社の今後の競争力に大きな影響を及ぼす、と大町は考えていた。

5

10

会社沿革と現状

大町工業株式会社は、1948年（昭和23年）、現社長の大町英太郎氏（大町一雄副社長の父）によって創立された。これは、第二次大戦の終結を満州で迎え、ソ連軍捕虜としての厳しい拘留生活を経て帰還した大町氏（当時34才）が、人生の再出発を期して始めた資本金30万円のささやかな個人事業であった。設立当初は、川崎市の本社事務所と東京営業所（大田区蒲田）を持ち、主として繊維製品向けの包装材料を販売するだけの事業だったが、翌1949年（昭和24年）には東京営業所の隣に小規模な工場を建設し、包装材料の防水加工と裁断も行なうようになった。

15

その後、戦後の復興と日本経済の高度成長の下で、1951年には上記の工場を拡張してターボリン紙（アスファルトを含浸した防水紙）の生産を開始、1952年には名古屋営業所を開設、さらに1956年10月には大田区蒲田の営業所を改築してここに本社を移転、というように順調な発展を遂げた。

20

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクールの小野桂之介教授が、クラス討議の基礎資料として作成したものである。なお、ケース中の固有名詞と数値は一部変更されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 小野桂之介（1986年10月作成、1993年10月改訂）